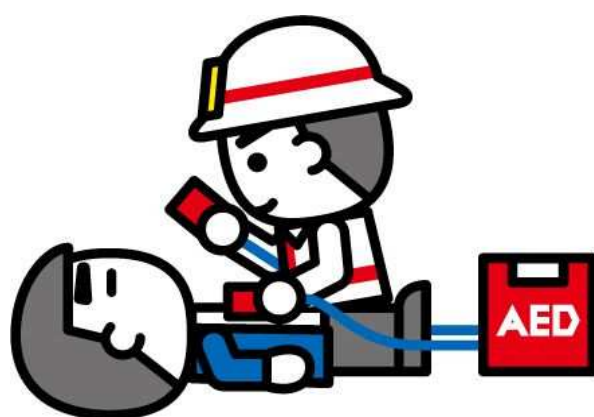


# III 救急・救助



余 白

# 第 1 救急活動の概況

## 1 救急業務実施体制

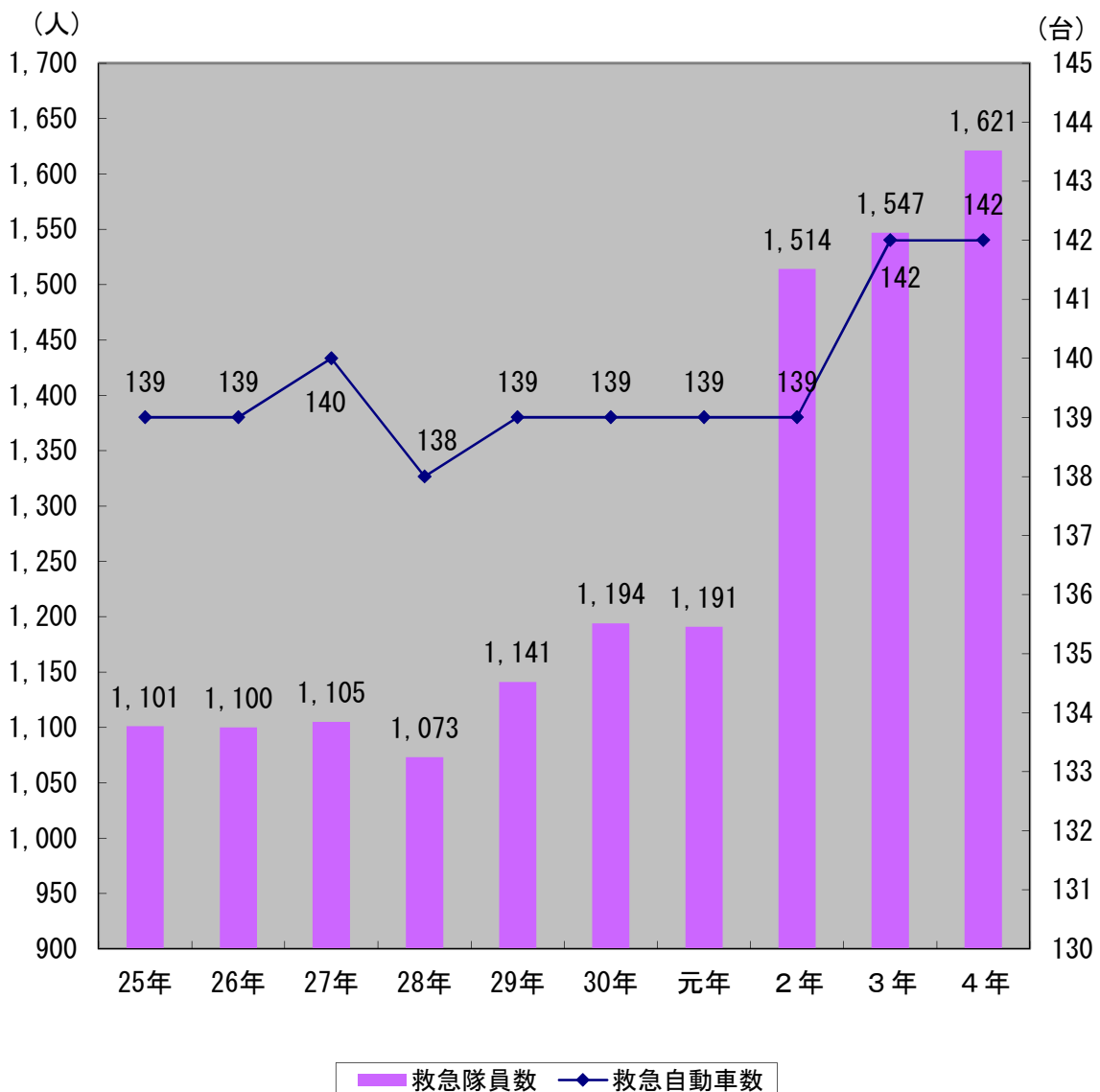
令和 4 年 4 月 1 日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口99.9%がカバーされている。

救急自動車の保有台数は142台、救急隊員は1,621人（専任339人、兼任1,282人）で、前年に比べ救急隊員は74人増加している。また、救急告示医療機関は101機関、その他医療機関は1,317機関となっている。

平成 3 年 8 月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

令和 4 年 4 月 1 日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計804名のうち679名が救急業務に従事している。

図 1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移（各年4月1日現在）



## 2 救急業務実施状況

### (1) 概要

令和3年中における救急出動件数は81,614件、搬送人員は73,963人で、いずれも昨年を上回った。

昨年と比べると救急出動件数は2,135件（2.7%）の増加、搬送人員は1,964人（2.7%）の増加となっている。

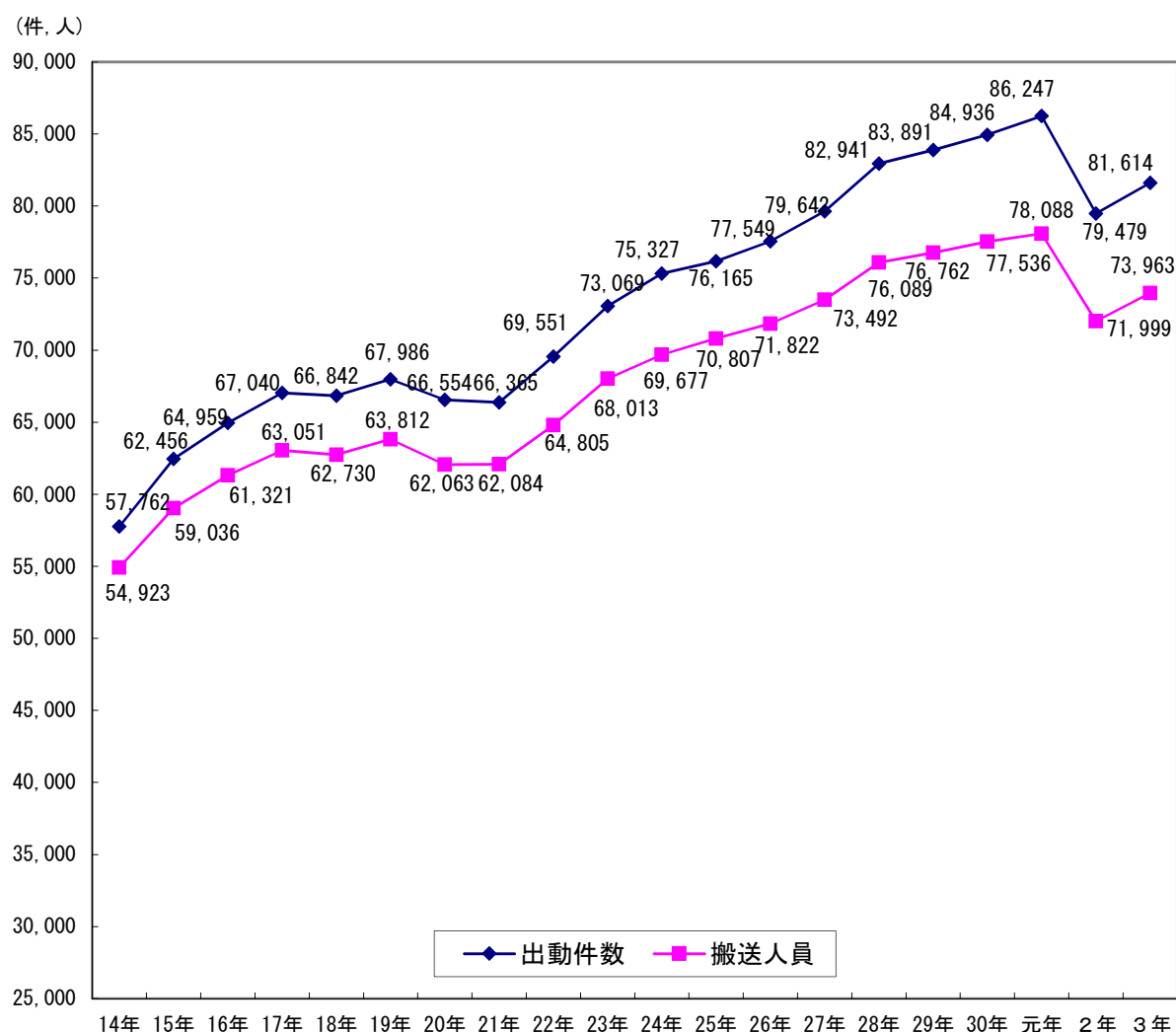
これは、1日平均223.6件（前年217.8件）、約6.4分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均202.6人（前年197.3人）、約7.1分に1人の割合で搬送されていることとなる。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で49,544件（全体の60.7%）、次いで、その他13,326件（同16.3%）、一般負傷が11,760件（同14.4%）となっている。

なお、搬送人員については、1位が急病で44,543人（全体の60.2%）、次いで、その他が12,436人（同16.8%）、一般負傷が10,901人（同14.7%）となり、上位3位までで全体の約91.8%を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばい、平成22年から再び増加に転じ、令和2年に大幅に減少したが令和3年は再び増加に転じた。

図2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別，傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表 1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

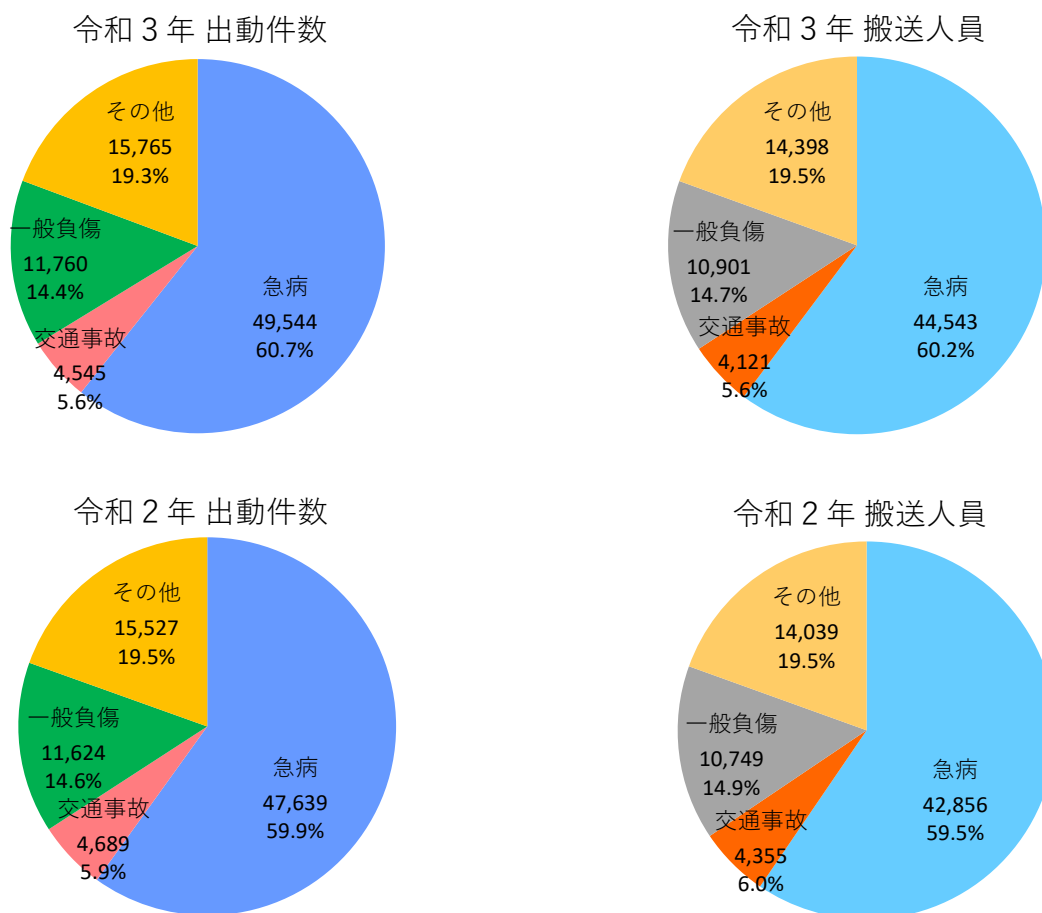
(単位：件，人，%)

区分		計		急病		交通事故		一般負傷		その他	
		件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
令和3年	出動件数	81,614	100.0	49,544	60.7	4,545	5.6	11,760	14.4	15,765	19.3
	搬送人員	73,963	100.0	44,543	60.2	4,121	5.6	10,901	14.7	14,398	19.5
令和2年	出動件数	79,479	100.0	47,639	59.9	4,689	5.9	11,624	14.6	15,527	19.5
	搬送人員	71,999	100.0	42,856	59.5	4,355	6.0	10,749	14.9	14,039	19.5
増減	出動件数	2,135	—	1,905	—	△ 144	—	136	—	238	—
	搬送人員	1,964	—	1,687	—	△ 234	—	152	—	359	—

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他(転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他)を示す。

図 3

(単位：件，人，%)



ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では他の年齢に比べ、交通事故が比較的高い比率を占めている。

表2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人，%)

区分	計		急病		交通事故		一般負傷		その他	
	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
新生児	138	100.0	16	11.6	0	0.0	4	2.9	118	85.5
乳幼児	2,101	100.0	1324	63.0	91	4.3	486	23.1	200	9.5
少年	2,022	100.0	937	46.3	353	17.5	260	12.9	472	23.3
成人	20,141	100.0	11,973	59.4	2,312	11.5	1,673	8.3	4,183	20.8
高齢者	49,561	100.0	30,293	61.1	1,365	2.8	8,478	17.1	9,425	19.0
合計	73,963	100.0	44,543	60.2	4,121	5.6	10,901	14.7	14,398	19.5

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

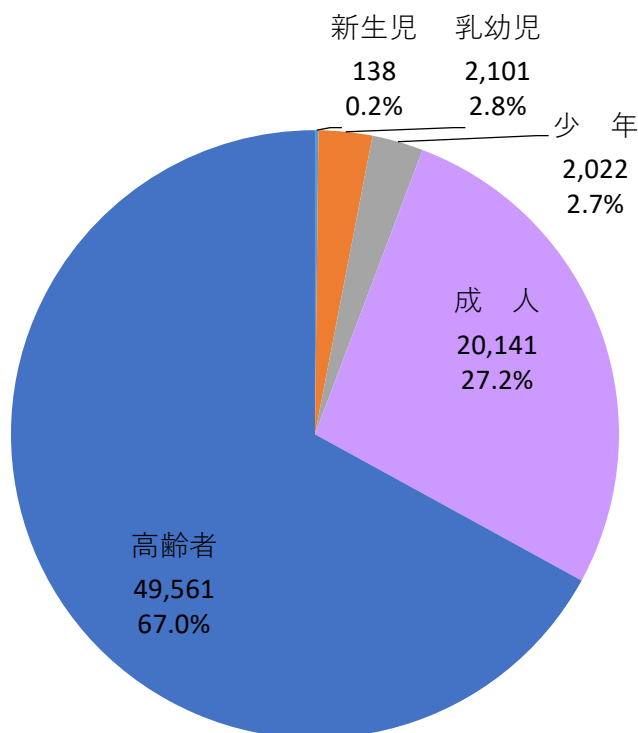
成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

(注) 構成比：搬送理由/年齢区分別搬送人員

図4



イ 傷病程度別搬送人員

令和3年中における搬送人員は73,963人であるが、これを傷病程度別に見ると、軽症、中等症の両者で全体の88.7%を占めている。

表3 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

（単位：人、％）

区分	合計		死亡		重症		中等症		軽症		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
火災	55	100.0	1	1.8	12	21.8	21	38.2	21	38.2		
自然災害	1	100.0					1	100.0				
水難	45	100.0	8	17.8	21	46.7	11	24.4	5	11.1		
交通事故	4,121	100.0	17	0.4	227	5.5	1,349	32.7	2,528	61.3		
労働災害	693	100.0	11	1.6	103	14.9	334	48.2	245	35.4		
運動競技	428	100.0			8	1.9	150	35.0	270	63.1		
一般負傷	10,901	100.0	60	0.6	1,185	10.9	5,396	49.5	4,260	39.1		
加害	183	100.0			7	3.8	64	35.0	112	61.2		
自損行為	557	100.0	42	7.5	87	15.6	263	47.2	165	29.6		
急病	44,543	100.0	585	1.3	3,739	8.4	25,292	56.8	14,922	33.5	5	0.0
その他	12,436	100.0	15	0.1	2,233	18.0	9,848	79.2	309	2.5	31	0.2
計	73,963	100.0	739	1.0	7,622	10.3	42,729	57.8	22,837	30.9	36	0.0

- ※ 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの  
 重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの  
 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの  
 軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの  
 その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの  
 ※ 構成比：傷病程度人数/区分合計

また、年齢別にみると、新生児、成人、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年の場合は、軽症の割合が高くなっている。

表4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

（単位：人、％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
新生児	138	100.0			24	17.4	102	73.9	10	7.2	2	1.45
乳幼児	2,101	100.0	2	0.1	42	2.0	656	31.2	1,400	66.6	1	0.05
少年	2,022	100.0	2	0.1	52	2.6	694	34.3	1,272	62.9	2	0.10
成人	20,141	100.0	117	0.6	1,448	7.2	9,718	48.2	8,846	43.9	12	0.06
高齢者	49,561	100.0	618	1.2	6,056	12.2	31,559	63.7	11,309	22.8	19	0.04
計	73,963	100.0	739	1.0	7,622	10.3	42,729	57.8	22,837	30.9	36	0.05



(3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況

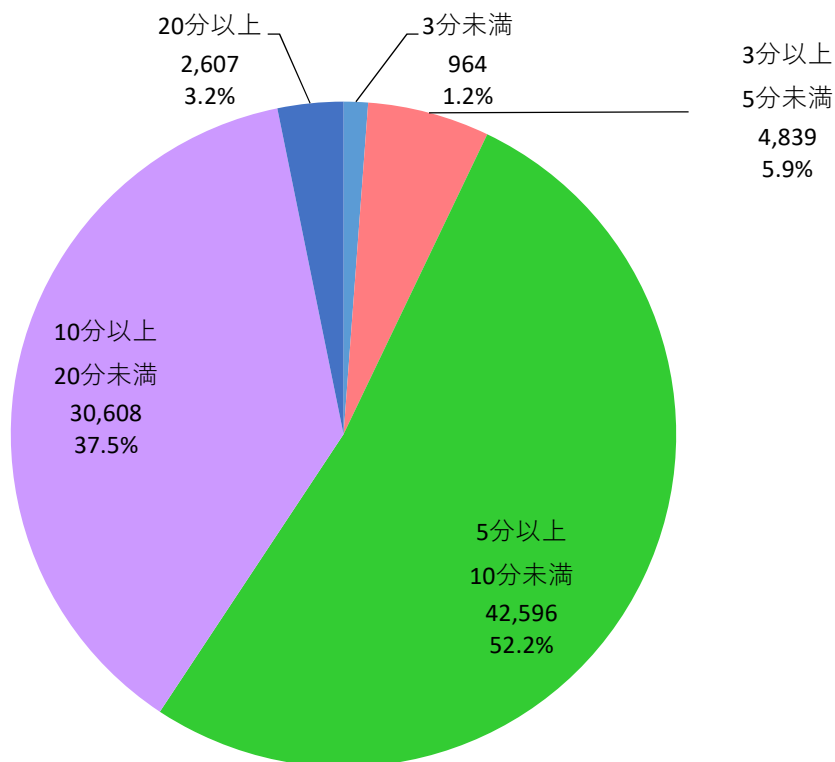
令和3年中の救急出動件数81,614件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の42,596件で全体の52.2%を占めている。

表5 現場到着時間別出動件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	49,544	443	2,033	25,243	20,284	1,541	9.8分	—
交通事故	4,545	50	205	2,269	1,793	228	10.1分	—
一般負傷	11,760	141	502	6,115	4,564	438	9.8分	—
その他	15,765	330	2,099	8,969	3,967	400	8.2分	—
計	81,614	964	4,839	42,596	30,608	2,607	9.5分	9.4分
構成比	100.0%	1.2%	5.9%	52.2%	37.5%	3.2%	—	—

図5



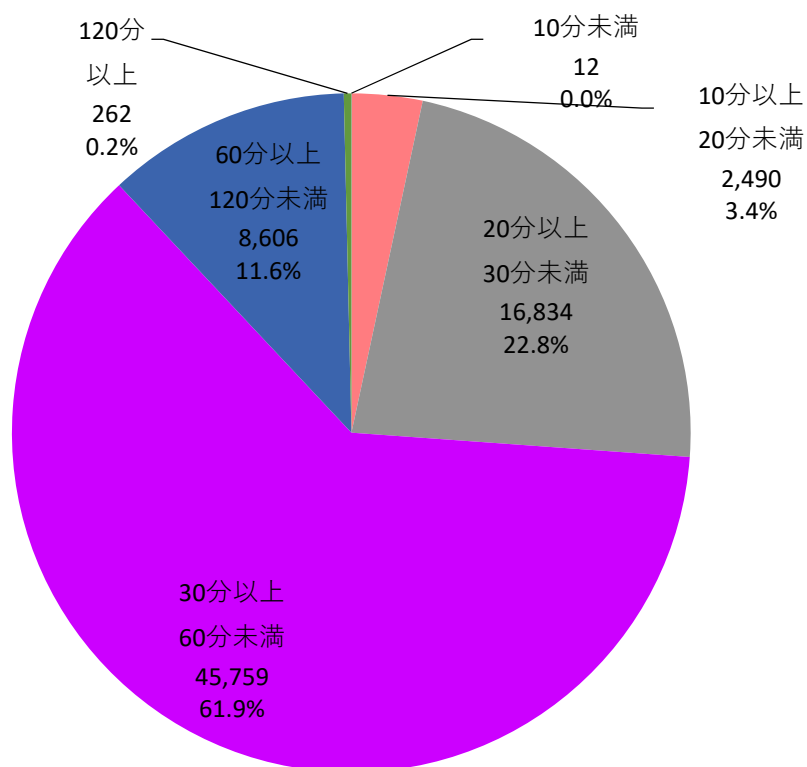
令和3年中の搬送人員73,963人について、收容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に收容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると搬送人員のうち54,627人（74.0%）が收容に30分以上要している。

表6 收容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	收容平均 所要時間	
								県	全国
急病	44,543	2	931	9,670	29,246	4,581	113	40.7分	—
交通事故	4,121	1	51	758	2,750	546	15	42.8分	—
一般負傷	10,901	4	217	2,230	7,177	1,236	37	41.5分	—
その他	14,398	5	1,291	4,176	6,586	2,243	97	40.6分	—
計	73,963	12	2,490	16,834	45,759	8,606	262	40.9分	42.8分
構成比	100.0%	0.0%	3.4%	22.8%	61.9%	11.6%	0.4%	—	—

図6



- (4) 事故種別転送回数別搬送人員の状況  
搬送人員73,963人のうち99.6%は、転送なしで収容されており、  
そのうち、転送回数1回の者が転送者全体の99.6%を占めている。

表7 転送回数別搬送人員の状況

区分	計	急病	交通事故	一般負傷	その他	
転送なし	73,679	44,371	4,107	10,837	14,364	
転送	1回	283	171	14	64	34
	2回	1	1			
	3回					
	4回					
	5回以上					
	小計 (A)	284	172	14	64	34
計 (B)	73,963	44,543	4,121	10,901	14,398	
転送率 (A)/(B) × 100	0.4	0.4	0.3	0.6	0.2	

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関ともに処置困難が多く、次いで専門外の順になっている。

表8 医療機関転送理由の状況

(単位：件，%)

区分	合計	ベッド 満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他	
救急告示	構成比	100.0		21.2		3.0	59.6		16.2
		99		21		3	59		16
非告示	構成比	100.0	1.1	16.3			70.7		12.0
		184	2	30			130		22
計	構成比	100.0	0.7	18.0		1.1	66.8		13.4
		283	2	51		3	189		38

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

令和3年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定、血圧測定の順で処置が多くなっている。

表9 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別	計	急病	交通事故	一般負傷	その他
	応急処置対象 搬送人員	73,546	44,465	4,117	10,881	14,083
止血		1,470	194	197	894	185
固定		5,058	298	2,414	1,772	574
人工呼吸		317	229	9	17	62
心マッサージ		126	92	4	7	23
心肺蘇生		1,472	1,161	31	134	146
酸素吸入		14,504	9,363	391	735	4,015
気道確保		2,099	1,624	43	184	248
(再掲)気道確保のうち気管挿管		246	173		47	26
保温		6,290	3,928	248	955	1,159
被覆		3,487	207	728	2,162	390
在宅療法継続		278	238		22	18
ショックパンツによる血圧保持						
除細動		164	140	1	8	15
薬剤投与		334	246	11	39	38
血圧測定		70,162	42,344	4,011	10,459	13,348
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		22,117	15,571	1,566	2,364	2,616
血中酸素飽和度の測定		71,827	43,304	4,074	10,685	13,764
心電図		47,570	32,869	1,959	5,342	7,400
静脈路確保(CPA前)		280	202	28	23	27
静脈路確保(CPA後)		536	412	15	49	60
血糖測定		1,526	1,411	18	63	34
ブドウ糖投与		86	85			1
その他の応急処置		54,321	33,113	3,126	7,992	10,090
計(再掲の気管挿管を除く)		304,024	187,031	18,874	43,906	54,213

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

(6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、令和4年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ間、えびのインターチェンジから人吉インターチェンジ間を沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。

東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

高速自動車道における救急活動状況

表10 九州自動車道

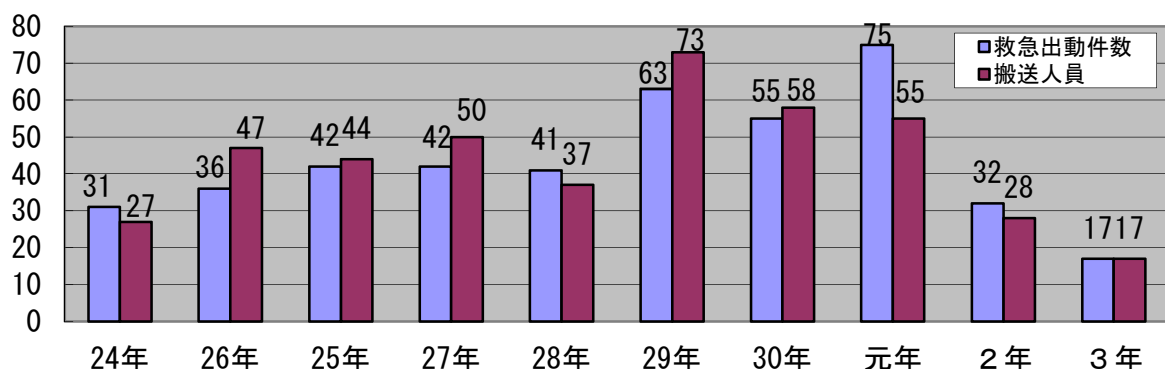
区分	インターチェンジ名 (IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
鹿児島市消防局	鹿児島	4	4	24	昭和63.3.29
	鹿児島北			12	昭和52.11.15
	薩摩吉田	6	5		昭和48.12.13
	始良	1			昭和48.12.13
始良市消防本部	加治木	10	8	3	昭和48.12.13
	始良	11	9	1	昭和48.12.13
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	11	8	1	平成17.11.7
	横川	2	1		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野	1	1	3	昭和55.3.22
計	9 IC	46	36	44	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表11 東九州自動車道

区分	インターチェンジ名 (IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
霧島市消防局	国分パーキング	1	1	5	平成12.3.4
	国分	4	2	4	平成14.3.2
	隼人東	2	2	4	平成12.3.4
	隼人西	1	1	1	平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	6	9		平成14.5.9
計	5 IC	14	15	14	

図7 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



### 3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急Ⅱ課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）をも行うものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。

また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、始良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、499名が認定を受け20消防本部で実施が可能となっている。

平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与について734名が認定・登録を受け、平成26年4月には「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」の実施が追加され、678名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、令和3年12月末までに応急手当指導員3,134名、応急手当普及員838名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。

なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

#### 令和3年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	531回	9,603名受講
上級救命講習	31回	198名受講
救急入門コース	174回	3,804名受講
その他の講習	561回	24,403名受講
計	1,297回	38,008名受講

表12 救急業務高度化の推進状況

各年4月1日現在

区分	令和4年	令和3年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	20		1.00
救急隊員数①	1,259	1,181	78	1.07
うち救急救命士有資格者②	640	609	31	1.05
(②/①:%)	(50.8%)	(51.6%)		
(②のうち気管挿管認定者)	385	380	5	1.01
(②のうち薬剤投与認定者)	593	573	20	1.03
(②のうち処置拡大認定者)	583	562	21	1.04
うち救急科（救急標準課程）	581	536	45	1.08
(③/①:%)	(46.1%)	(45.4%)		
救急自動車数④	142	142		1.00
うち高規格車⑤	137	134	3	1.02
(⑤/④:%)	(96.5%)	(94.4%)		
救急隊数⑥	117	118	△1	0.99
うち救急救命士運用隊⑦	116	116		1.00
(⑦/⑥:%)	(99.1%)	(98.3%)		

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は640名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が39名、救急自動車に搭乗しない資格者が125名で、有資格者は計804名いる。

表13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

消防本部別	区分	人口 (人) R2年 国調	面積 (km <sup>2</sup> )	救 急 体 制										
				救急車総数 (台)		救急 隊数	救急 救命 士運 用隊 数 ※2	救急隊員数 (人)						
				うち 高 規 格	うち 予 備 車			計	うち資格者・修了者				専任	兼任
									救急 救命 士	標準 課程	救急 I 課 程	救急 II 課 程		
鹿児島市消防局	593,128	547.61	23	23	5	18	18	131	81	48		2	84	47
枕崎市消防本部	20,033	74.78	3	3		2	2	47	15	26		6	15	32
出水市消防本部	51,994	329.98	4	4		4	3	16	15	1			16	
垂水市消防本部	13,554	162.12	3	3	1	2	2	35	15	19		1		35
薩摩川内市消防局	92,403	682.92	9	8	1	7	7	47	33	12		2	22	25
日置市消防本部	47,153	253.01	4	4	1	3	3	51	25	26			21	30
霧島市消防局	123,135	603.17	8	8		8	8	49	46	3			46	3
いちき串木野市消防本部	27,490	112.3	3	3	1	2	2	26	10	15		1		26
南さつま市消防本部	32,887	283.59	5	5		5	5	71	24	47			24	47
始良市消防本部	76,348	231.25	5	5	1	4	4	43	33	10			43	
さつま町消防本部	22,400	303.9	3	3	1	2	2	31	12	19			8	23
指宿南九州消防組合	72,091	506.72	8	8		8	8	121	46	72		3		121
阿久根地区消防組合	28,975	250.5	6	6		4	4	50	22	24		4		50
伊佐湧水消防組合	33,591	536.85	6	6	1	5	5	70	32	34		4		70
大隅曾於地区消防組合	78,257	781.03	9	9	2	7	7	46	36	10			28	18
大隅肝属地区消防組合	134,985	1160.79	12	12	2	10	10	118	42	76			26	92
沖永良部与論地区広域事務組合	18,182	114.27	4	3	2	2	2	37	22	13		2		37
徳之島地区消防組合	23,497	248.03	4	3	1	6	6	52	27	25				52
熊毛地区消防組合	39,550	993.03	10	9	4	6	6	89	42	36		11		89
大島地区消防組合	65,367	877.95	13	12	1	12	12	129	62	65		2	6	123
計	1,595,020	95,970.85	142	137	24	117	116	1,259	※1 640	581		38	339	920

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は640名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が39名、救急自動車に搭乗しない資格者が125名で、有資格者は計804名いる。

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。



[現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は令和3年中、左記以外は令和4年4月1日現在]

医 療 機 関 数												人口10万人当たりの救急医療機関数	現場到着平均所要時間(分)	収容平均所要時間(分)
合計	救急告示医療機関					その他の医療機関								
	国公立	公的	私 的		計	国公立	公的	私 的		計				
病 院			診 療 所	病 院				診 療 所						
628	3	3	26	3	35	13	4	55	521	593	5.9	9.4	35.4	
19	1		3		4			4	11	15	20.0	4.8	33.8	
40	1				1	2		4	33	39	1.9	8.5	38.5	
7	1				1				6	6	7.4	8.8	50.4	
79		1	7		8	5		5	61	71	8.7	9.6	40.4	
39			2		2			7	30	37	4.2	8.9	41.7	
90	1		6		7			7	76	83	5.7	9.3	44.0	
27								6	21	27		7.5	39.8	
32	2		1		3	3		4	22	29	9.1	9.4	45.3	
66			4		4	3		5	54	62	5.2	8.7	41.2	
18			1		1			3	14	17	4.5	9.9	53.2	
64	1		3	1	5			11	48	59	6.9	10.5	46.2	
20			2		2	4		1	13	18	6.9	9.4	43.0	
27	1		2		3			4	20	24	8.9	9.9	48.7	
42			1	2	3			7	32	39	3.8	10.0	54.4	
107	2		6	1	9	12		9	77	98	6.7	10.3	43.9	
8			2		2				6	6	11.0	9.0	33.0	
8			2	1	3			1	4	5	12.8	10.2	44.5	
19	1		2		3	4		1	11	16	7.6	9.6	44.2	
78	1		4		5	12	1	4	56	73	7.6	10.4	42.0	
1,418	15	4	74	8	101	58	5	138	1,116	1,317	6.3	9.5	40.9	

表14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分	事故種別救急出動件											
	計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	
消防本部名												
鹿児島市消防局	30,492	93		15	1,656	212	163	4,251	114	345	19,735	
枕崎市消防本部	1,127	2		2	66	15	4	155	1	3	586	
出水市消防本部	2,041			4	149	19	7	296	4	18	1,276	
垂水市消防本部	919	1			41	6	3	139	3	5	566	
薩摩川内市消防局	4,044	16	1	4	213	35	32	552	8	33	2,269	
日置市消防本部	2,184			1	117	18	29	280	1	11	1,223	
霧島市消防本部	6,102	11		6	388	46	30	896	21	71	3,503	
いちき串木野市消防本部	1,248			3	52	16	10	194	4	8	670	
南さつま市消防本部	1,779	3	1	6	121	14	17	291	2	12	970	
始良市消防本部	3,686	1		7	232	47	10	581	7	36	2,182	
さつま町消防本部	1,057	1	2		59	17	9	135	4	7	592	
指宿南九州消防組合	3,720	2		3	214	44	17	522	5	30	1,881	
阿久根地区消防組合	1,818	1		4	62	15	8	254	1	12	1,072	
伊佐湧水消防組合	1,891	1		1	130	14	3	301	7	14	999	
大隅曾於地区消防組合	3,927	10	1	2	252	78	20	507	5	41	2,427	
大隅肝属地区消防組合	6,983	10		6	457	72	45	942	11	58	4,281	
沖永良部与論地区 広域事務組合	819	2		4	34	15	6	147	1	7	476	
徳之島地区消防組合	1,533			2	44	8	1	241	7	13	981	
熊毛地区消防組合	2,103	4		4	83	27	9	360	5	20	1,332	
大島地区消防組合	4,141	1		20	175	16	17	716	22	30	2,523	
計	81,614	159	5	94	4,545	734	440	11,760	233	774	49,544	
時間別	0~2	3,319	8		3	79	9	408	39	54	2,468	
	2~4	2,596	2			52	11	267	25	41	2,025	
	4~6	2,636	10		3	91	5	366	14	37	1,962	
	6~8	5,265	7	2	15	427	23	804	11	69	3,646	
	8~10	10,320	13		11	635	133	34	1,677	15	66	6,016
	10~12	11,251	17	1	14	603	156	109	1,604	15	74	5,892
	12~14	9,969	19		6	526	111	95	1,285	10	67	5,312
	14~16	8,925	21		19	563	152	71	1,292	7	80	4,817
	16~18	8,915	21	2	9	710	88	60	1,449	20	94	4,798
	18~20	7,870	15		4	537	23	43	1,161	23	72	5,107
	20~22	6,071	7		6	210	15	23	839	19	60	4,313
22~24	4,477	19		4	112	8	4	608	35	60	3,188	

〔令和3年中〕

数				事故種別搬送人員											
その他				計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
転院搬送	医師搬送	資輸 機材 等送	その他												
3,421			487	26,791	18		8	1,464	186	156	3,925	92	264	17,270	3,408
284	4		5	1,083	2		1	59	15	5	153		2	562	284
258	2		8	1,911			1	142	18	7	275	3	13	1,193	259
149			6	904	1			52	6	3	137	3	5	549	148
821	3		57	3,629	2		1	198	34	32	511	6	17	2,040	788
503			1	2,093			1	117	17	29	269	1	7	1,152	500
1,101	12		17	5,620	7		3	341	46	27	823	17	59	3,200	1,097
291				1,175			2	48	16	11	181	4	6	616	291
337	1		4	1,698	1	1	4	121	13	16	283	2	9	913	335
579			4	3,478			4	215	46	10	549	6	26	2,046	576
229	2			968	1			55	16	8	125	2	5	529	227
990	9		3	3,492	1		1	203	43	17	486	5	21	1,731	984
379			10	1,748	1		1	55	14	8	247	1	8	1,035	378
414		2	5	1,810	1			124	14	3	295	6	9	942	416
581			3	3,656	12		1	200	74	20	480	3	29	2,259	578
1,091	4		6	6,454	3		2	416	71	43	892	10	37	3,890	1,090
105			22	763	1		4	33	15	8	138	1	5	455	103
153			83	1,445			2	49	8	1	237	5	8	981	154
240	8	1	10	1,972	3		3	84	27	9	346	4	8	1,240	248
586	10		25	3,273	1		6	145	14	15	549	12	19	1,940	572
12,512	55	3	756	73,963	55	1	45	4,121	693	428	10,901	183	557	44,543	12,436
187			64	2,938	4		2	69	9		367	33	43	2,226	185
134			39	2,337				48	9		231	21	36	1,860	132
105			43	2,407	6		3	83	5		347	12	28	1,819	104
203			57	4,789	1		9	370	21	1	760	11	47	3,368	201
1,632	10		78	9,475	3		3	575	125	33	1,611	12	45	5,461	1,607
2,698	8	1	59	10,319	4	1	6	547	150	103	1,517	12	47	5,250	2,682
2,464	13		61	9,098	6		3	485	106	92	1,182	8	41	4,711	2,464
1,812	16	2	73	8,114	6		8	527	143	71	1,196	4	59	4,292	1,808
1,586	7		71	8,087	7		3	645	81	58	1,357	16	67	4,278	1,575
811	1		73	7,025	6		2	486	21	44	1,053	17	51	4,539	806
509			70	5,409	5		4	183	15	22	749	8	45	3,874	504
371			68	3,965	7		2	103	8	4	531	29	48	2,865	368

表15 曜日別月別救急出動件数

(令和3年中)

事故種別 (件) 区分		火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	そ の 他				計
												転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その他	
曜日別	月	19		10	685	123	47	1,666	23	126	7,641	2,124	10		106	12,580
	火	24		12	683	118	50	1,623	31	122	6,987	1,955	11		107	11,723
	水	29	1	12	620	117	48	1,546	39	103	6,839	1,916	7		121	11,398
	木	24		6	658	128	39	1,712	22	105	6,979	1,866	3		94	11,636
	金	25	2	16	692	116	34	1,661	28	118	7,194	2,122	9	1	107	12,125
	土	20	2	23	641	87	74	1,732	38	93	6,767	1,589	10	1	102	11,179
	日	18		15	566	45	148	1,820	52	107	7,137	940	5	1	119	10,973
計		159	5	94	4,545	734	440	11,760	233	774	49,544	12,512	55	3	756	81,614
月別	1月	10		3	368	56	14	1021	18	69	4,426	1,069	5	1	50	7,110
	2月	23		5	275	54	28	870	23	51	3,656	937	4		61	5,987
	3月	12		8	380	58	30	962	20	75	3,802	1,035	4		66	6,452
	4月	17		8	353	57	36	886	20	67	3,815	1,029	4		45	6,337
	5月	8	1	1	421	61	54	914	15	58	3,932	989	1	1	65	6,521
	6月	11	1	10	318	54	50	915	18	74	3,795	1055	5		64	6,370
	7月	3	2	7	404	83	66	963	20	77	4,410	1061	5		61	7,162
	8月	12		14	399	69	21	962	20	67	4,652	1024	2		72	7,314
	9月	11		15	339	74	33	881	17	60	4,059	1000	7		65	6,561
	10月	16		17	424	58	40	1028	22	65	4,144	1045	9		67	6,935
	11月	10		1	391	53	31	1094	18	57	4,244	1086	2		75	7,062
	12月	26	1	5	473	57	37	1264	22	54	4,609	1,182	7	1	65	7,803

#### 4 応急手当指導員等養成講習の状況

表16

【指導員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当該年中修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	9	7	2				3
	応急手当指導員講習Ⅱ	76	22		54			25
	応急手当指導員講習Ⅲ							
	消防長認定者	101	100	1				
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	7	7					
	計	193	136	3	54			28
前年中までの修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	460	311	47	67	35	14	81
	応急手当指導員講習Ⅱ	1,543	592	1	950			461
	応急手当指導員講習Ⅲ	1	1				4	1
	消防長認定者	621	569	32		20	17	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	316	299	16			1	21
	計	2,941	1,772	96	1,017	55	1	56
合計	3,134	1,908	99	1,071	55	1	56	571

表17

【普及員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当該年中修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	46				2	44	6
	応急手当普及員講習Ⅱ							
	消防長認定者							
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	46				2	44	6
前年中までの修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	727	1		71	3	652	29
	応急手当普及員講習Ⅱ	29		1	20		8	1
	消防長認定者	36			12		24	
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	792	1	1	103	3	684	29
合計	838	1	1	103	5	728	29	67

## 第2 救助活動の概況

### 1 救助業務実施体制

令和4年4月1日現在、救助隊は33隊配置されており、そのうち4隊が特別救助隊で、1隊が高度救助隊である。

また、428人の救助隊員のうち41.1%にあたる176人が専任救助隊員である。

表18 救助体制

(単位：隊、人)

区分	救助隊数			救助隊員数			
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員	計
消防本部							
鹿児島市消防局	3	3		3	42		42
	4	2		2	28		28
	5	1		1	14		14
枕崎市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
出水市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
垂水市消防本部	3		1	1		7	7
	4						
	5						
薩摩川内市消防局	3	1		1	10		10
	4	1		1	10		10
	5						
日置市消防本部	3		1	1		15	15
	4						
	5						
霧島市消防局	3		2	2	2	8	10
	4						
	5						
いちき串木野市消防本部	3		1	1		6	6
	4						
	5						
南さつま市消防本部	3	1		1		9	9
	4						
	5						
始良市消防本部	3	1		1	10		10
	4						
	5						
さつま町消防本部	3		1	1		12	12
	4						
	5						
指宿南九州消防組合	3		2	2		20	20
	4						
	5						
阿久根地区消防組合	3		1	1		37	37
	4						
	5						
伊佐湧水消防組合	3		2	2		23	23
	4						
	5						
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	20		20
	4						
	5						
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	34	44
	4	1		1	10		10
	5						
沖永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		22	22
	4						
	5						
徳之島地区消防組合	3		1	1		31	31
	4						
	5						
熊毛地区消防組合	3		1	1		18	18
	4						
	5						
大島地区消防組合	3	1		1	12		12
	4						
	5						
県計	3	11	17	28	114	252	366
	4	4		4	48		48
	5	1		1	14		14

※ 省令3は省令第3条の規定による救助隊、省令4は省令第4条の規定による救助隊（特別救助隊）、省令5は省令第5条の規定による救助隊（高度救助隊）

表19 救助隊が搭乗する車両

区分	救 助 車	はしご車	屈 折 はしご車	ポンプ車	水 槽 付 ポンプ車	化 学 車	そ の 他	計
	消防本部							
鹿児島市消防局	3							3
枕崎市消防本部	1		1					2
出水市消防本部	1	1						2
垂水市消防本部							1	1
薩摩川内市消防局	1							1
日置市消防本部	1							1
霧島市消防局	1	2						3
いちき串木野市 消防本部	1	1						2
南さつま市消防本部	1	1					1	3
始良市消防本部	1							1
さつま町消防本部	1							1
指宿南九州消防組合	2	1						3
阿久根地区消防組合	1						1	2
伊佐湧水消防組合	2							2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2		2	7
大隅肝属地区消防組合	1	1						2
沖永良部与論地区 広域事務組合	1							1
徳之島地区消防組合	1							1
熊毛地区消防組合	1							1
大島地区消防組合	1	1						2
県 計	24	9	1		2		5	41

## 2 救助業務実施状況

令和3年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数707件、救助活動件数471件、救助人員544人となっている。（表22）

これを前年と比較すると出動件数は68件（8.8％）の減少、活動件数は35件（6.9％）の減少、救助人員は116人（17.6％）の減少となっている。

図8 過去20年間の救助業務実施状況の推移

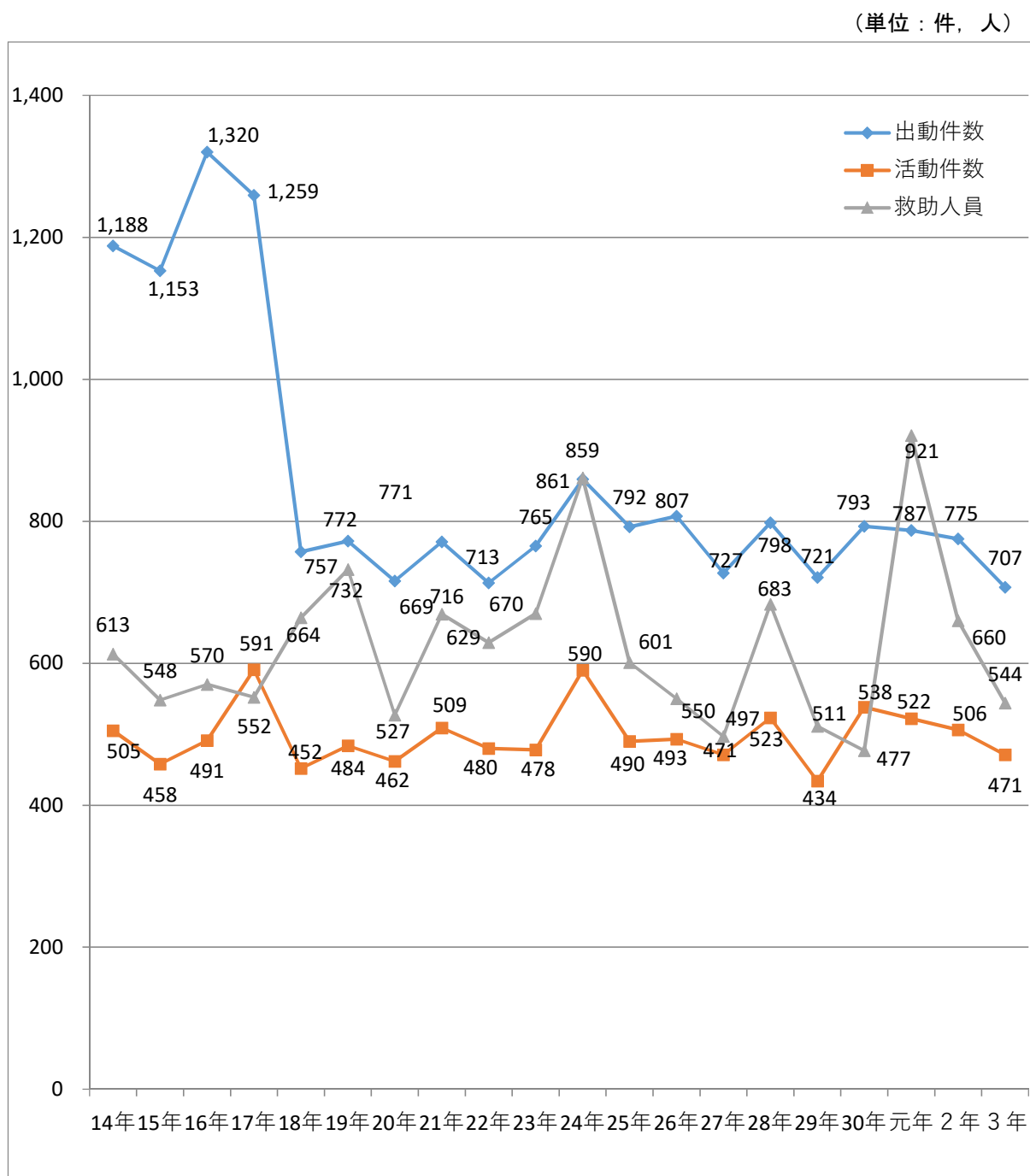




表20 事故種別出動件数及び出動人員の状況（令和3年）

（単位：件，人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による	建物等	ガス事故	破裂事故	その他	計
消防本部											
鹿児島市消防局	5	50	14			2	13	4		23	111
枕崎市消防本部		11	2			2				4	19
出水市消防本部	1	15	2			1	1			9	29
垂水市消防本部		4					1				5
薩摩川内市消防局	3	16	2	1		1	10			4	37
日置市消防本部		16				1				2	19
霧島市消防局	1	23	7				3			25	59
いちき串木野市消防本部		10	2							3	15
南さつま市消防本部	9	22	3			2	5			6	47
始良市消防本部		29	7			2	1			8	47
さつま町消防本部		11		3						5	19
指宿南九州消防組合		26	1			4	6			30	67
阿久根地区消防組合		16	1					1		4	22
伊佐湧水消防組合		9		1						5	15
大隅曾於地区消防組合		30	3	1		3				9	46
大隅肝属地区消防組合	2	39	5			2	5			9	62
沖永良部与論地区広域事務組合		4	2			2				2	10
徳之島地区消防組合		1								3	4
熊毛地区消防組合		5	2			3				8	18
大島地区消防組合		22	11			2	6			15	56
救助出動件数 計	21	359	64	6	27	51	5			174	707
救助出動人員	専任救助隊員	87	888	241	5	55	140	28		262	1,706
	兼任救助隊員	8	447	58	10	35	15	2		213	788
	消防隊員	342	1,140	369	13	79	120	26		572	2,661
	救急隊員	62	1,440	192	6	80	124	15		488	2,407
	消防団員	246		1	15					327	589
	計	745	3,915	861	49	249	399	71		1,862	8,151

表21 事故種別活動件数及び活動人員の状況（令和3年）

（単位：件、人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等に	ガス事故及び	破裂事故	その他	計
消防本部											
鹿児島市消防局	5	38	13			2	11			20	89
枕崎市消防本部		5	2			2				3	12
出水市消防本部	1	10	1			1	1			9	23
垂水市消防本部		3					1				4
薩摩川内市消防局	3	14	2	1		1	9			4	34
日置市消防本部		8				1				2	11
霧島市消防局	1	8	5				3			15	32
いちき串木野市消防本部		1								3	4
南さつま市消防本部	9	12	2			1	4			6	34
始良市消防本部		28	7			2	1			8	46
さつま町消防本部		6		3						2	11
指宿南九州消防組合		18				4	2			22	46
阿久根地区消防組合		5	1							3	9
伊佐湧水消防組合		6		1						5	12
大隅曾於地区消防組合		9	3			1				7	20
大隅肝属地区消防組合	2	28					5			5	40
沖永良部与論地区広域事務組合		2									2
徳之島地区消防組合										3	3
熊毛地区消防組合		3	1			2				7	13
大島地区消防組合		6	4				5			11	26
救助活動件数 計	21	210	41	5		17	42			135	471
救助活動人員	専任救助隊員	62	355	172	4	27	87			158	865
	兼任救助隊員	8	187	21	6	23	5			158	408
	消防隊員	188	555	223	8	38	78			388	1,478
	救急隊員	42	757	122		38	80			355	1,394
	消防団員			1	15					282	298
	計	300	1,854	539	33	126	250			1,341	4,443

（注）「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表22 事故種別救助人員の状況（令和3年）

（単位：人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等	ガス欠等	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	6	45	13			2	7			20	93
枕崎市消防本部		27	18			2				7	54
出水市消防本部	1	10	1			1	1			10	24
垂水市消防本部		13					1				14
薩摩川内市消防局	4	15	2	2	1	5				4	33
日置市消防本部		9			1					2	12
霧島市消防局	1	7	5				3			13	29
いちき串木野市消防本部		1								3	4
南さつま市消防本部	1	14	2		1	3				6	27
始良市消防本部		49	6		2	1				9	67
さつま町消防本部		8		4						2	14
指宿南九州消防組合		19			4	2				20	45
阿久根地区消防組合		5	1							3	9
伊佐湧水消防組合		8		2						5	15
大隅曾於地区消防組合		9	3		1					7	20
大隅肝属地区消防組合	2	30					5			5	42
冲永良部与論地区広域事務組合		2									2
徳之島地区消防組合										2	2
熊毛地区消防組合		3	1		2					6	12
大島地区消防組合		6	4				5			11	26
救助人員計	15	280	56	8	17	33				135	544

表23 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般用救助用器具	かぎ付きはしご	38
	三連はしご	29
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	14
	空気式救助マット	14
	救命索発射銃	31
	サバイバースリング又は救助用縛帯	88
	平担架	15
重量物排除用器具	油圧ジャッキ	39
	油圧スプレッター	14
	可搬ウィンチ	33
	マンホール救助器具	27
	救助用簡易起重機	3
	マット型空気ジャッキ	37
	大型油圧スプレッター	29
	救助用支柱器具	20
	チェーンブロック	11
	切断用器具	油圧切断機
エンジンカッター		31
ガス溶断機		20
チェーンソー		39
鉄線カッター		50
空気鋸		30
大型油圧切断機		28
空気切断機		14
コンクリート・鉄筋切断用チェーンソー		7
破壊用器具		万能斧
	ハンマー	63
	携帯用コンクリート破壊器具	20
	削岩機	21
	ハンマドリル	23
測定用器具	生物剤検知器	3
	可燃性ガス測定器	28
	有毒ガス測定器	31
	酸素濃度測定器	17
	放射線測定器	61
	化学剤検知器	6
	呼吸保護用器具	空気呼吸器
空気補充用ボンベ		234
酸素呼吸器		39
簡易呼吸器		14
防塵マスク		118
送排風機		33
エアラインマスク		

隊員保護用器具	耐電手袋	126
	耐電衣	63
	耐電ズボン	61
	耐電長靴	89
	防塵メガネ	72
	携帯警報器	86
	防毒マスク	90
	化学防護服（陽圧式化学防護服を除く）	92
	陽圧式化学防護服	66
	耐熱服	15
器具	放射線防護服	24
	特殊ヘルメット	
	除染シャワー（歩行可能者用）	3
器具	除染シャワー（歩行可能者・担架用）	2
	除染剤散布器	3
	除染シャワー（多人数対応用）	
救助用器具	潜水器具	72
	救命胴衣	249
	水中投光器	31
	救命浮環	31
	浮標	17
	救命ボート	22
	船外機	14
	水中スクーター	14
	水中無線機	8
	水中時計	8
器具	水中テレビカメラ	1
	登山器具	7
器具	バスケット型担架	45
器具	簡易画像探索機	9
高度救助用器具	画像探索機	11
	地中音響探知機	1
	熱画像直視装置	16
	夜間暗視装置	2
	電磁波探査装置	
	二酸化炭素探査装置	
	水中探査装置	
その他救助用器具	地震警報器	1
	投光器	53
	携帯投光器	52
	携帯拡声器	60
	携帯無線機	63
	応急処置用セット	24
	車両移動器具	20
	緩降機	22
	ロープ登降機	61
	救助用降下機	50
器具	発電機	53

### 第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当が必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）

十島村以北

陸上自衛隊第15旅団 第15ヘリコプター隊（沖縄県那覇市）

奄美大島以南

#### 1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

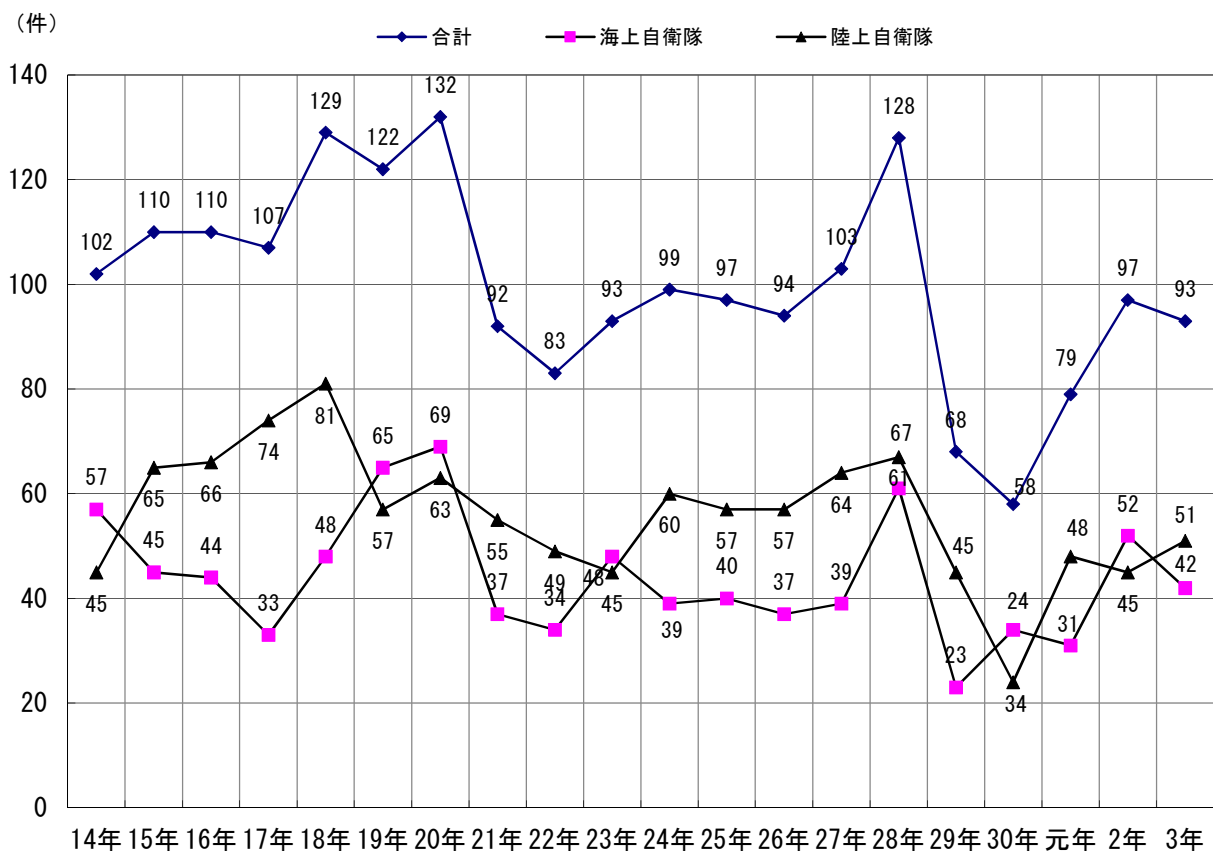
令和3年中における急患搬送出動件数は93件である。（図9）

出動件数93件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が62件（全体の66.7%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が23件（同24.7%）、鹿児島郡が5件（同5.4%）となっている。（図10及び表24）

また、月別では、1月及び11月の12件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では18時から20時までが19件で最も多くなっている。（表25）

令和3年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが59人（全体の63.4%）で最も多く、次にそのほかが15人（同16.1%）となっている。（表26及び表27）

図9 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



（注）「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図10 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）

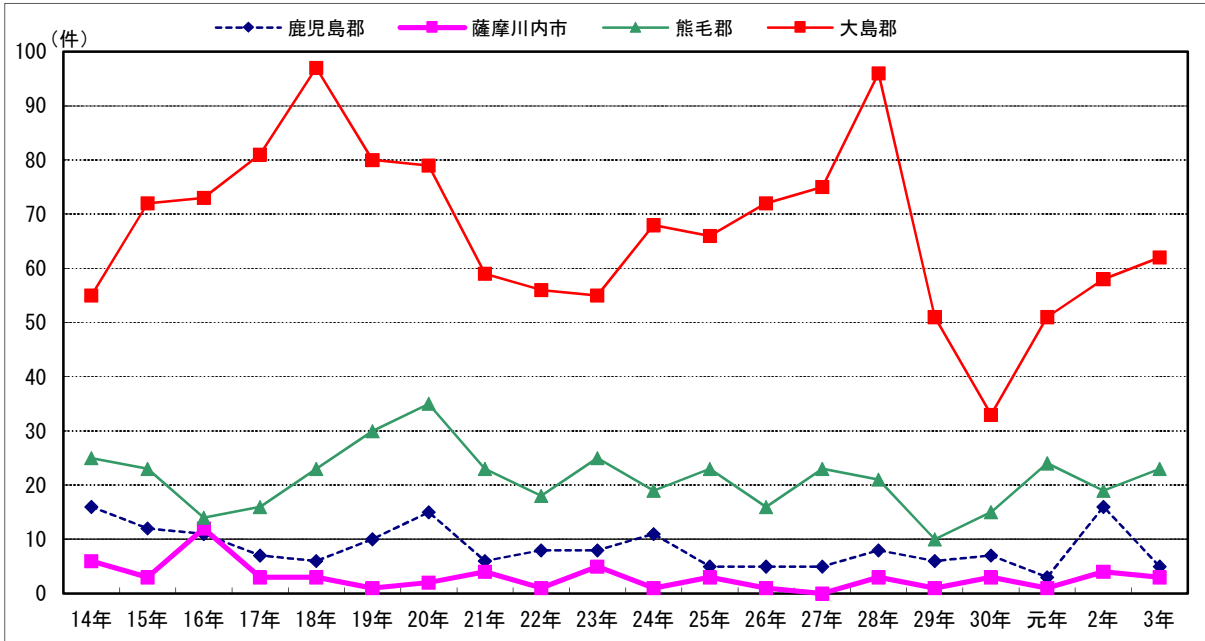


表24 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2） (年中)

年	郡別	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊毛郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 14 年		102 (45)	16	6	25	55 (45)	鹿屋2件
15		110 (65)	12	3	23	72 (65)	鹿屋2件
16		110 (66)	11	12	14	73 (66)	
17		107 (74)	7	3	16	81 (74)	
18		129 (81)	6	3	23	97 (81)	
19		121 (56)	10	1	30	80 (56)	鹿屋1件
20		131 (64)	15 (1)	2	35	79 (63)	鹿屋2件, 沖縄2件
21		92 (55)	6	4	23	59 (55)	鹿屋1件
22		83 (49)	8	1	18	56 (49)	
23		93 (44)	8	5	25	55 (44)	鹿屋1件, 沖縄2件
24		99 (61)	11 (1)	1	19	68 (60)	鹿屋1件, 沖縄1件
25		97 (57)	5	3	23	66 (57)	沖縄1件
26		94 (57)	5	1	16	72 (57)	沖縄1件
27		103 (64)	5	0	23	75 (64)	沖縄1件
28		128 (67)	8	3	21	96 (67)	
29		68 (45)	6	1	10	51 (45)	沖縄1件
30		58 (24)	7	3	15	33 (24)	
元		79 (48)	3	1	24	51 (48)	
2		97 (55)	16	4	19	58 (55)	
3		93 (51)	5	3	23	62 (51)	
計		1,994 (1,128)	170 (2)	60	425	1339 (1126)	沖縄分構成比
構成比率		100.0%	8.5%	3.0%	21.3%	67.2%	(56.6%)

- (注) 1 ( ) 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。  
 2 便宜上、熊毛郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。  
 3 平成20年及び24年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表25 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

区分		年別	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
月別	1		5 (2)	5 (2)	10 (6)	9 (5)	11 (5)	8 (4)	21 (11)	12 (5)	7 (4)	11 (3)
	2		8 (5)	4 (4)	15 (10)	8 (8)	11 (8)	8 (3)	9 (4)	8 (8)	9 (7)	4 (4)
	3		8 (4)	13 (5)	10 (4)	10 (7)	9 (7)	16 (10)	15 (6)	4 (4)	3 (2)	9 (4)
	4		2 (1)	8 (5)	9 (5)	10 (7)	11 (7)	9 (6)	9 (3)	6 (4)	7 (3)	5 (1)
	5		11 (3)	11 (9)	7 (6)	11 (7)	7 (6)	4 (1)	9 (6)	9 (5)	5 (4)	5 (4)
	6		5 (4)	12 (5)	4 (3)	8 (6)	11 (5)	10 (4)	5 (3)	7 (6)	6 (4)	8 (1)
	7		13 (7)	9 (5)	7 (4)	7 (6)	11 (7)	2 (2)	7 (4)	6 (5)	5 (3)	7 (6)
	8		7 (4)	5 (3)	4 (2)	5 (5)	13 (7)	11 (6)	10 (5)	10 (5)	6 (4)	6 (2)
	9		14 (3)	8 (7)	15 (11)	8 (5)	8 (4)	7 (3)	4 (2)	8 (3)	5 (4)	9 (5)
	10		13 (5)	13 (5)	10 (7)	13 (10)	6 (5)	21 (8)	12 (4)	9 (5)	11 (1)	10 (7)
	11		8 (2)	11 (7)	11 (6)	8 (4)	17 (9)	13 (4)	18 (8)	6 (1)	10 (4)	12 (4)
	12		8 (5)	11 (8)	8 (2)	10 (4)	14 (11)	13 (6)	13 (7)	7 (4)	9 (9)	7 (4)
計			102 (45)	110 (65)	110 (66)	107 (74)	129 (81)	122 (57)	132 (63)	92 (55)	83 (49)	93 (45)
時間帯別	0~2		6	10 (6)	6 (3)	3 (3)	6 (3)	2 (1)	6 (1)	9 (3)	7 (6)	5
	2~4		9 (4)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	3	5 (2)
	4~6		3 (1)	2	5 (4)	4 (2)	5 (3)	5 (2)	3 (2)	3 (1)	1 (1)	1
	6~8		3 (3)	3 (2)	6 (3)	10 (8)	5 (3)	7 (4)	3	2 (1)	1	1 (1)
	8~10		11 (6)	19 (16)	13 (9)	7 (5)	11 (5)	13 (4)	13 (4)	4 (2)	9 (6)	9 (4)
	10~12		12 (6)	21 (12)	21 (15)	14 (9)	21 (14)	19 (11)	12 (6)	13 (11)	9 (4)	10 (8)
	12~14		8 (4)	9 (7)	11 (6)	11 (10)	19 (13)	11 (7)	15 (11)	11 (7)	12 (6)	6 (2)
	14~16		8 (5)	6 (6)	12 (10)	8 (5)	5 (3)	10 (5)	18 (10)	9 (7)	11 (8)	5 (2)
	16~18		12 (4)	12 (6)	9 (3)	14 (9)	18 (15)	10 (3)	11 (8)	11 (5)	7 (5)	11 (8)
	18~20		16 (8)	5 (1)	11 (7)	9 (6)	13 (7)	21 (5)	11 (4)	10 (5)	5 (2)	14 (3)
	20~22		9 (4)	14 (5)	9 (3)	14 (8)	11 (8)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	10 (6)	20 (12)
22~24		5	7 (3)	5 (2)	9 (7)	12 (5)	9 (6)	23 (10)	11 (7)	8 (5)	6 (3)	

(注) 1 ( )内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。  
 2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。



(年中)

24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	計
3 (2)	14 (6)	6 (3)	6 (4)	17 (10)	6 (5)	5 (3)	4 (1)	5 (1)	12 (9)	177 (91)
13 (8)	1 (1)	2 (1)	10 (6)	5 (3)	2 (2)	7 (2)	7 (4)	6 (3)	7 (5)	144 (96)
5 (3)	9 (6)	10 (6)	9 (8)	11 (7)	3 (2)	4 (2)	7 (5)	7 (3)	6 (3)	168 (98)
11 (5)	7 (3)	10 (8)	6 (3)	9 (3)	6 (5)	3 (1)	3 (3)	3 (0)	6 (3)	140 (76)
5 (4)	5 (4)	5 (2)	4 (4)	8 (4)	4 (1)	5 (1)	6 (5)	4 (2)	6 (2)	131 (80)
8 (4)	8 (4)	8 (5)	3 (2)	11 (5)	2 (1)	2	7 (6)	8 (4)	3 (0)	136 (72)
9 (6)	15 (7)	7 (5)	16 (11)	15 (10)	6 (2)	5 (4)	6 (4)	11 (6)	5 (3)	169 (107)
9 (7)	2 (1)	8 (7)	9 (4)	15 (5)	10 (7)	5 (2)	7 (6)	6 (4)	9 (6)	157 (92)
7 (5)	6 (5)	6 (2)	10 (4)	10 (8)	6 (4)	5 (4)	5 (2)	8 (2)	10 (5)	159 (88)
9 (4)	10 (7)	12 (8)	11 (6)	6 (5)	8 (7)	5 (2)	9 (5)	7 (4)	6 (1)	201 (106)
11 (8)	12 (8)	9 (5)	11 (6)	11 (2)	8 (5)	7 (1)	9 (4)	10 (5)	12 (9)	214 (102)
9 (4)	8 (5)	11 (5)	8 (6)	10 (5)	7 (4)	5 (2)	9 (3)	22 (11)	11 (5)	200 (110)
99 (60)	97 (57)	94 (57)	103 (64)	128 (67)	68 (45)	58 (24)	79 (48)	97 (45)	93 (51)	1996 (1118)
8 (5)	5 (4)	8 (5)	7 (6)	11 (5)	7 (4)	3 (1)	8 (4)	9 (3)	6 (2)	132 (65)
4 (2)	6 (3)	4 (1)	7 (2)	7 (6)		4 (2)	6 (2)	5 (2)	6 (5)	85 (41)
5 (2)	2 (1)	3 (2)		8 (3)	3 (1)	3	0 (0)	5 (3)	4 (3)	65 (31)
5 (5)	3 (3)	5 (4)	2 (2)	5 (3)		2	0 (0)	3 (2)	2 (2)	68 (46)
5 (5)	3 (3)	9 (6)	5 (4)	10 (6)	1 (1)	0	2 (2)	0 (0)	3 (2)	147 (90)
9 (6)	10 (9)	6 (3)	12 (8)	16 (7)	1	0	2 (2)	3 (3)	4 (1)	215 (135)
5 (2)	14 (9)	10 (8)	10 (6)	11 (8)	1 (1)	3 (1)	2 (0)	10 (5)	10 (4)	189 (117)
7 (5)	5 (3)	6 (5)	9 (2)	8 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	11 (7)	5 (5)	148 (97)
13 (8)	14 (8)	10 (3)	17 (11)	12 (7)	9 (6)	2 (1)	15 (8)	5 (2)	9 (4)	221 (124)
15 (9)	16 (6)	13 (9)	17 (12)	25 (11)	11 (9)	19 (10)	13 (9)	16 (6)	19 (10)	279 (139)
11 (6)	10 (4)	9 (6)	11 (8)	7 (2)	23 (15)	13 (6)	17 (8)	20 (5)	16 (8)	257 (132)
12 (5)	9 (4)	11 (5)	6 (3)	8 (5)	10 (6)	8 (2)	12 (11)	10 (7)	9 (5)	190 (101)

表26 令和3年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

傷病別 市町村別		合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿 児 島 郡	三 島 村											
	十 島 村	5									5	
薩摩川内市		3					1				2	
熊 毛 郡 (西之表市含)	西之表市	3									3	
	中種子町	4									3	1
	南種子町	2									2	
	屋久島町	14		1			1				11	1
大 島 郡 (奄美市含)	奄美市	15 (8)							2		9 (7)	4 (1)
	龍 郷 町	1									1	
	大 和 村											
	宇 検 村											
	瀬戸内町	2 (2)									2 (2)	
	喜 界 町	12 (12)		2 (2)							10 (10)	
	徳之島町	6 (6)					1 (1)	1 (1)		2 (2)	1 (1)	1 (1)
	天 城 町	4 (4)					1 (1)			2 (2)		1 (1)
	伊 仙 町	5 (3)					1 (1)			2 (1)		2 (1)
	和 泊 町	7 (6)									5 (5)	2 (1)
	知 名 町	5 (5)			1 (1)						2 (2)	2 (2)
	与 論 町	5 (5)							1 (1)		3 (3)	1 (1)
計		93 (51)		3 (2)	1 (1)		5 (3)	1 (1)	3 (1)	6 (5)	59 (30)	15 (8)

(注1) ( )内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送の傷病者は含まない。

表27 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

傷病別 年別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
14	102 (46)	1 (1)	4 (3)		4 (2)	15 (5)	7 (3)	5 (4)	13 (8)	48 (18)	5 (2)
15	110 (66)	2 (1)	2 (1)		4 (1)	30 (15)	3 (1)	12 (11)	10 (9)	38 (22)	9 (5)
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)
25	96 (56)	1 (1)	1		3 (2)	12 (4)		21 (13)	1 (1)	38 (25)	19 (10)
26	93 (56)	2 (1)	6 (4)		3 (3)	7 (3)		17 (10)	6 (4)	39 (21)	13 (10)
27	104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)
28	128 (67)	2	1 (1)		2	24 (17)	3 (1)	17 (9)	4 (2)	48 (22)	27 (15)
29	68 (45)		3 (3)			17 (11)	1 (1)	2 (1)	9 (7)	26 (17)	10 (5)
30	58 (24)			1 (1)	1	6 (4)		7 (2)	2 (1)	30 (14)	11 (2)
元	79 (48)				3 (3)	21 (9)	2 (2)	5 (4)	3 (2)	40 (24)	5 (4)
2	104 (55)	1	2 (1)	1		13 (9)	2	4 (1)	4 (4)	48 (27)	29 (13)
3	93 (51)		3 (2)	1 (1)		5 (3)	1 (1)	3 (1)	6 (5)	59 (30)	15 (8)

(注) ・本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団（内書き）が搬送した人員である。  
 ・不搬送の傷病者は含まない。

## 第4 消防・防災ヘリコプターの活動

### 1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、急患搬送、災害危険箇所の調査点検などに幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をよりの確かかつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入し、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎空港（現枕崎ヘリポート）に防災航空センターを設置するとともに枕崎市、南さつま市、指宿南九州の3消防本部から派遣された消防職員6名で編成する鹿児島県防災航空隊を発足させた。

平成30年12月19日に、経年劣化による不具合の発生を防止し、更なる安定的な運航を図ることを目的とし、新たな機材への更新を行い、令和元年5月11日から運航を開始した。

なお、令和2年4月1日から令和5年3月31日まで、熊毛地区消防組合より派遣された消防職員1名を加え、航空隊7名体制となっている。

### 2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

#### (1) 災害応急対策活動

- ア 被災状況等の調査及び情報収集活動
- イ 食料、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資、人員等の搬送
- ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動
- エ その他、災害応急対策上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (2) 救急活動

- ア 山村、離島等からの救急患者の搬送
- イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送
- ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の病院搬送
- エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送
- オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (3) 火災防御活動

- ア 林野火災等における空中からの消火活動
- イ 被災状況調査及び情報収集活動
- ウ 消防隊員、消防資機材等の搬送
- エ その他、火災防御活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (4) 救助活動

- ア 河川、海等での水難事故、山岳遭難事故等における捜索または救助
- イ 高層建築物火災における救助
- ウ 山崩れ等の被害により、陸上から接近できない被災者等の救助
- エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助
- オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (5) 広域航空消防防災応援活動

表28 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

		～令和元年5月11日(旧機体)	令和元年5月11日～(新機体)
型 式		ベル式412EP型	レオナルド式AW139型
定 員		13名(増槽タンク非装着時15名)	14名(前席2名+客席12名)
最 大 全 装 備 重 量		5,398kg	7,000kg
空 虚 重 量		3,820kg	4,579kg
有 効 搭 載 量		1,578kg	2,421kg
航 続 距 離		720km	1,250km
最 大 巡 航 速 度		259km/h	310km/h
限 界 高 度		6,096m	6,096m
全 長		17.1m	16.62m
全 幅		2.9m	4.22m
全 高		4.6m	4.98m
消 火 用 水 積 載 量		1,400ℓ	1,800ℓ

### 3 消防・防災ヘリコプターの運航状況（ベル412EP型，レオナルドAW139型）

令和3年中における運航件数は210件となった。

過去10年間の推移は下図のとおりであり，救急活動，山岳や海上での捜索，救助活動などの緊急運航や各種防災訓練を行った。

図11 過去10年間の活動状況

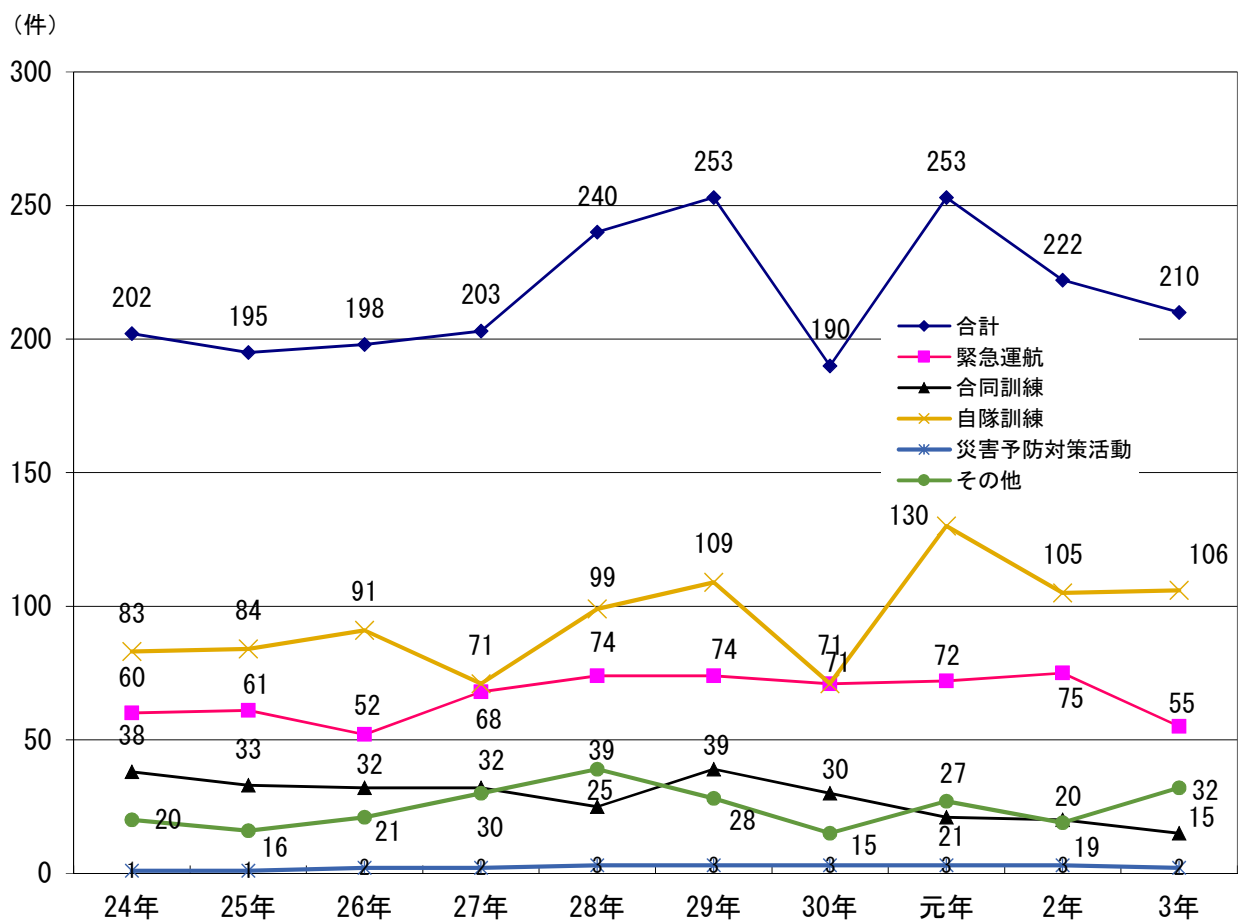


表29 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(令和3年)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	総計	
緊急運航	災害応急対策活動	件数													55件 60時間05分	
		時間														
	救急活動	件数		6		1	3	3	6	3	6	6	1	2		37
		時間		6:30		1:35	3:45	2:30	5:05	4:50	9:50	4:25	0:05	3:25		42:00
	火災防 御活動	件数		1												1
		時間		0:45												0:45
	救助活動	件数		3	1	1	1				2	5	1			14
		時間		1:20	3:10	1:15	0:55				1:35	4:30	0:50			13:35
	広域応援	件数			1								2			3
		時間			2:40								1:05			3:45
災害予防活動	件数			1			1							2		
	時間			2:40			2:35							5:15		
合同訓練	他県広域関係	件数													15件 19時間10分	
		時間														
	県市町村関係	件数		1	1	1	1		2		1	8				15
		時間		1:10	0:35	1:35	1:25		2:55		1:20	10:10				19:10
	合同訓練 事前訓練	件数														
		時間														
自隊訓練	件数	1	12	19	7	8	10	9	6	5	9	3	17	106	106件 120時間05分	
	時間	1:30	14:05	25:25	6:50	8:25	11:20	8:40	5:40	5:40	9:45	3:10	19:35	120:05		
その他	件数	6			1	1	1	3	14	1	1	2	2	32	32件 52時間30分	
	時間	6:05			3:35	1:25	1:25	13:35	17:10	3:05	1:30	1:35	3:05	52:30		
合計	件数	7	23	23	11	14	15	20	23	15	29	9	21	210	210件 257時間05分	
	時間	7:35	23:50	34:30	14:50	15:55	17:50	30:15	27:40	21:30	30:20	6:45	26:05	257:05		

表30 消防・防災ヘリコプターの活動状況（R3年中）

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
0件 0回 0時間00分					

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	2/5		奄美市	1	3:00
2	1	2/7		南さつま市	1	0:15
3	1	2/17		南種子町	1	1:20
4	1	2/21		指宿市	1	0:15
5	1	2/23		南さつま市	1	0:15
6	1	2/26		屋久島町	1	1:25
7	1	4/22		鹿児島市	1	1:35
8	1	5/4		鹿児島市	1	2:15
9	1	5/23		霧島市	1	0:25
10	1	5/31		屋久島	1	1:05
11	1	6/24		西之表市		0:40
12	1	6/24		西之表市	1	0:40
13	1	6/25		屋久島町	1	1:10
14	1	7/25		鹿児島市	1	1:40
15	1	7/28		屋久島町	1	1:05
16	1	7/30		西之表市		0:35
17	1	7/30		西之表市	1	0:35
18	1	7/31		西之表市		0:35
19	1	7/31		西之表市	1	0:35
20	1	8/6		南種子町		0:40
21	1	8/6		南種子町	1	0:45
22	1	8/30		徳之島町	1	3:25
23	1	9/5		指宿市	2	0:20
24	1	9/7		徳之島町		1:55
25	1	9/7		徳之島町	2	1:55
26	1	9/21		鹿児島市	1	2:05
27	1	9/24		徳之島町		1:40
28	1	9/24		徳之島町	1	1:55
29	1	10/1		指宿市	1	0:10
30	1	10/3		霧島市	1	0:30
31	1	10/6		知名町	1	2:05
32	1	10/19		霧島市	1	0:25
33	1	10/28		西之表市		0:35
34	1	10/28		西之表市	2	0:40
35	1	11/3		霧島市	1	0:05
36	1	12/27		屋久島町	1	1:30
37	1	12/29		十島村（口之島）	1	1:55
37件 37回 42時間00分						

(3) 火災防御活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	2/23		霧島市	0:45
1件 1回 0時間45分					

## (4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	2/7		南さつま市(山岳救助)	0:40
2	1	2/21		指宿市(山岳救助)	0:20
3	1	2/23		南さつま市(山岳救助)	0:20
4	1	3/30		南種子町(水難捜索)	3:10
5	1	4/6		南さつま市(水難捜索)	1:15
6	1	5/23		霧島市(山岳救助)	0:55
7	1	9/5		指宿市(山岳救助)	0:35
8	1	9/27		南さつま市(山岳捜索)	1:00
9	1	10/1		指宿市(山岳救助)	0:20
10	1	10/1		指宿市(山岳救助)	0:30
11	1	10/3		霧島市(山岳救助)	0:45
12	1	10/6		知名町(その他)	2:10
13	1	10/19		霧島市(山岳救助)	0:45
14	1	11/3		霧島市(山岳救助)	0:50
14件 14回 13時間35分					



## (5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	3/27		熊本県（火災防御）	2:40
2	1	11/3		宮崎県（救助）	0:35
3	1	11/3		宮崎県（救急）	0:30
3件 3回 3時間45分					

## (6) 各種防災訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時 間
1	1	2/19	隊員投入・エバック誘導無し救助	大隅曾於地区消防組合救助救出訓練	1:10
2	2	3/17	救急資器材、機体展示	鹿児島県消防学校第27期救急科教育訓練	0:35
3	1	4/30	隊員投入訓練	熊毛地区消防組合救助救出訓練	1:35
4	1	5/10	上空調査訓練	鹿児島市防災点検	1:25
5	1	7/27	隊員投入・災害想定訓練	鹿児島市消防局（高度救助隊）連携訓練	1:45
6	1	7/28	隊員投入・パーティカル担架救助	南さつま市消防本部救助救出訓練	1:10
7	1	9/28	隊員投入・航空担架救助	薩摩川内市消防局救助救出訓練	1:20
8	1	10/4	隊員投入・ドロップタンク消火訓練	出水市消防本部連携訓練	1:15
9	1	10/4	航空担架救助	出水市消防本部連携訓練	1:30
10	1	10/12	ドロップタンク消火訓練	さつま町消防本部火災防ぎょ訓練	1:15
11	1	10/18	隊員投入訓練	いちき串木野市消防本部隊員投入訓練	1:00
12	1	10/19	隊員投入・エバック誘導無し・ピタゴール救助	伊佐湧水消防組合救助救出訓練	1:45
13	1	10/26	隊員投入・エバック誘導有り救助	鹿児島市消防局（中央署）連携訓練	1:20
14	1	10/27	隊員投入・各種救助訓練	鹿児島県消防学校第26期救助科教育訓練	1:30
15	1	10/30	航空担架救助	枕崎市消防本部集団災害訓練	0:35
15件 15回 19時間10分					

余 白